

所長だより第49号 平成28年11月9日

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに 学んで世界の 明日をみる」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<http://www.uminoko.jp/>

「人と人、活動と活動をつなぐ学習のまとめ」

【所長 青木 正士】



環境教育は「つながりの教育」とも言われ、自分と様々な人や生物、事象などが網目のようにつながり関連していると実感できるよう学ぶことが重要とされています。しかし、生き物の名前を調べることのみ注視し、つながりのないまま学習を終わってしまうこともあるようです。

たとえば、プランクトン観察では、顕微鏡を使ってたくさんのプランクトンを見つけ、そのプランクトンの名前や特徴を調べています。「たくさん見つけた」「固有種を見つけた」「動物性と植物性がある」などの感想が聞かれ、興味を持って学習できているのですが、このままでは理科学習としての学びに留まります。もっと観察したり調べたりすると「植物をミジンコなどの動物が食べている」、「ミジンコは魚のえさになる」などのつながりを見つけることができますが、さらにその理由などを考えさせると

環境学習としての価値がさらに高まっていきます。

「魚は人間が食べている」「カワウという水鳥が魚をたくさん食べる」「魚がたべきれなかったプランクトンはどうになってしまうのか」「植物性プランクトンは栄養が多いと増える」「南湖と北湖ではどんな違いがあるのか」など、つながりを意識すると様々な情報とともにわかっていくことやわからなくてももっと知りたいことが、どんどん広がっていきます。

現在の琵琶湖には、以前のような赤潮の発生など、富栄養化を問題とする事象は起こっていません。しかし、外来植物の繁茂や湖底の低酸素化など、多様な問題が起きているようです。どうしてこのような問題が起きているのか、フローティングスクールの活動を通して子どもたちに考えさせてみてください。難しい課題であってもお互い考えを出し合えば、人と人がつながりその考えも深まっていきます。船内で体験したいいくつかの活動をつないで考えることで新たな発見もできるでしょう。

琵琶湖から離れたところに住んでいても、「水を大切に使う」、「ゴミを減らす」などの自分の行動が、つながりをたどって琵琶湖のためになっていると確信できるようになれば、立派な琵琶湖を守る環境保全活動となります。船内での学習のまとめは、まさしくつながりを発見し実感するための時間です。フローティングスクールでは、さらに深くつなげることができるようにいろいろな取組を進めているところです。無限につなげていくことができる環境教育の展開をフローティングスクールで試してみてください。